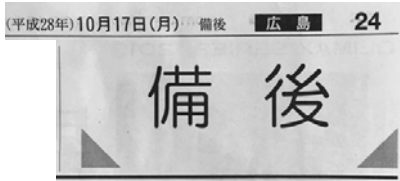


「一人きりではないからね」 福山 末期がんの女性を励ます

当法人の地域福祉センター仁伍職員によるご利用者への支援内容が掲載されています。闘病中のご利用者を励まし、ご子息と再会できる手掛かりを得るための活動です。ご利用者を主体にした実践を通して、社会にメッセージを送ります。



谷川さん(左)の踊りに見入る高原さん(右)。田中さんが高原さんに寄り添った—福山市内の病院で



二期 会合」の谷川代表 舞踊で慰問活動

「元気を出して」「一人きりではないからね」。末期がんと診断された独り暮らしの福山市の女性を、歌や踊りで慰問活動をしている岡山市のボランティアが15日、福山市内の病院に見舞い、舞踊で励ました。女性は「来ていただけたと知り、楽しみでした。とても良かった」と表情を緩ませた。女性を支える介護事業所職員らは「闘病の励みになれば」と願う。【目野創】

女性は福山市東吉津町の高原キヨ子さん(85)。岡山市の二期「会合」の谷川順一代表らが15日夜、入院先の病院を訪ねた。「旅のころはすすすかけの……」。演歌などに振りをつけて踊る「新舞踊」など日本舞踊を舞う谷川さんは、あてやかな舞衣装で、演歌「安宅の松風」や「白雲の城」などに合わせ踊りを披露。ベッドで上半身を起こして見入った高原さんは、友人らに「高原さんも一緒に踊れるように元氣になってね」と声を掛けられてうなずき、拍手を送っていた。

福山 末期がんの女性を励ます

見舞う家族もなく一人で入院生活を送る高原さんを気遣い、田中さんは、高原さんが元氣だったころに同事業所を慰問に訪れた縁のある谷川さんに相談、病院の理解を得て、慰問が実現した。当初は25日の予定だったが、高原さんの容体が予断を許さず、この日に早めたという。

谷川さんは「元氣になってくれればうれしい」といっていた。田中さんは「表情から、歌や踊りが本当に好きなんだと感じた。職員皆の願いとしては、息子さんに「目会わせてあげたい」と話していた。

業所職員の田中三千代さん(52)らが、役所に問い合わせたり、「実さんが住んでいるかもしれない」と伝え聞いた場所を訪ねたりして手を尽くしたが、手掛かりはなかった。

9月末、高原さんは体調を崩して病院に入院。検査したところ、今月に入り、既に肺や肝臓にがんが進行していることが分かった。「1カ月から半年」と余命宣告を受けたという。